

土岐 寛 「日本人の景観認識と景観政策」（日本評論社、2015 年 5 月）

■研究の目的

- ・都市機能の高度化が目覚ましい日本で、都市景観が依然として貧弱な根本的原因と背景を考察する—日本の風土や日本人の自然観、風景・景観認識、集落・都市形成過程、公共空間の認識と評価等
- ・日本における景観行政・景観政策の現状と問題をヨーロッパ諸国等との比較的視点から考察し、あるべき日本の景観政策を提示、展望する

■構成

はじめに

第 1 章「日本の都市景観の現況」

第 2 章「都市景観研究の軌跡」

第 3 章「日本人の自然観・風景観と集落・都市形成」

第 4 章「日本の近代化と都市景観」

第 5 章「日本における景観政策の現状と課題」

第 6 章「都市景観に関する市民意識の動向」

第 7 章「景観訴訟と景観権確立の可能性」

終 章「都市生活と都市景観」

これまでの研究成果

■著書

『海外の都市政策事情』ぎょうせい、1987 年 5 月

『地方自治とまちづくり』敬文堂、2002 年 1 月

『東京問題の政治学』第 2 版、日本評論社、2003 年 9 月

『景観行政とまちづくり』時事通信出版局、2005 年 3 月

『世界の街角まちづくり』北樹出版、2014 年 4 月

■論文

「内子町の歴史的町並みの形成と保全」『追手門経済論集』41 巻 1 号、2006 年 11 月

「景観の保全と創造—行政と市民の協働」『市民のためのコミュニティ・ビジネス入門』専修大学出版局、徳田賢二・神原理編、2011 年 3 月

「日本人の自然観と都市形成・都市景観」『大東法学』24 巻 2 号、2015 年 3 月

写真 新宿歌舞伎町 広告・看板だらけの街並み



写真 東京タワーからの景観 秩序なき都市景観



写真 電線類地中化以前の京都・産寧坂



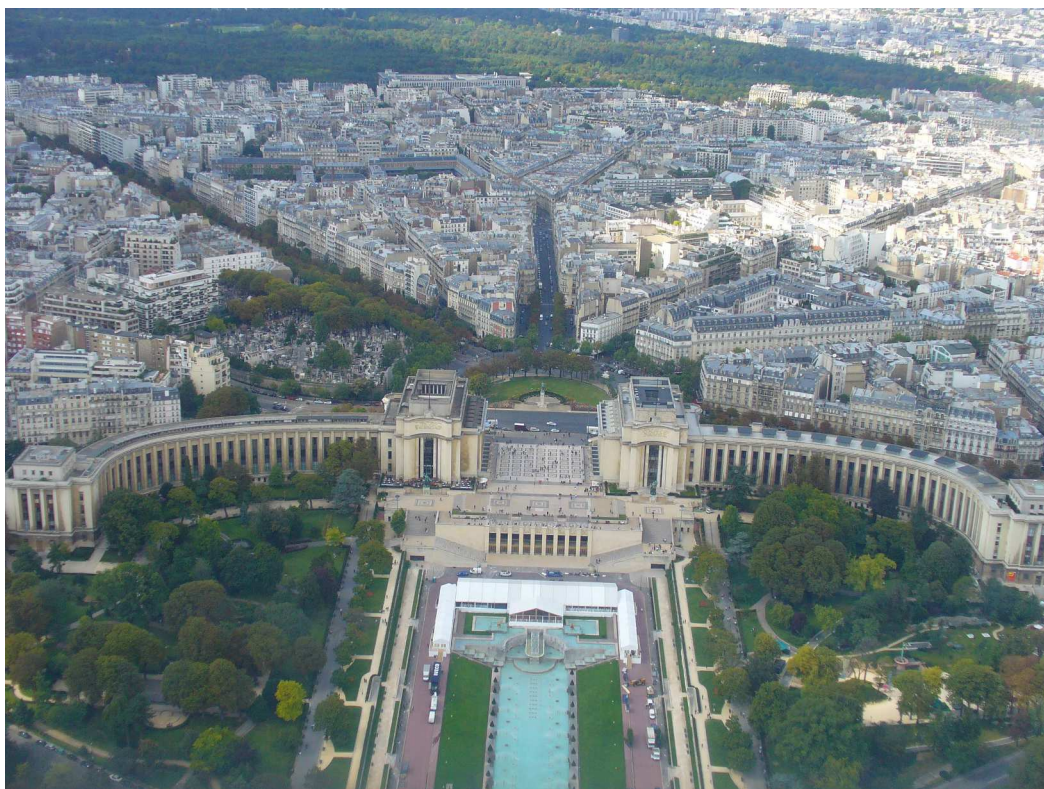
写真 電線類地中化以後の京都・産寧坂



写真 外国都市写真（リスボン） 調和ある都市景観



写真 外国都市写真（パリ） 整然とした計画都市



各章の概要

第1章「日本の都市景観の現況」

■研究者、識者による日本の都市景観、街並みの評価とコメントを紹介、問題状況を明示

■2003 年国土交通省「美しい国づくり政策大綱」で景観問題の課題を初めて提示、2004 年の景観法に結実

■日本人の自然観と集落・都市形成、明治以降の近代化過程の特質、都市景観への共同感情の形成など第2章以降の考察のポイントを提示

第2章「都市景観研究の軌跡」

都市景観に関する戦前戦後の代表的研究者・発言者として以下の10名を選び、思想と主張を検討

■椋内吉胤（ジャーナリスト）—都市美運動の先駆者、歴史的景観を重視

■黒田鵬心（美術評論家）—街並みの調和と統一を主張

■石川栄耀（都市計画官僚・早大教授）—商業都市美運動を推進、「美しい都市に住むことこそ人生の至福である」

■芦原義信（建築家・東大教授等）—都市の空間秩序から日本都市を考察、全体発想と部分発想、内部空間と外部空間を考察

■西山卯三（建築家・京大教授等）—京都の都市景観、スカイラインについて提言

■大谷幸夫（建築家・東大教授等）—歴史的町並みと町家を評価、基本の共有、個と集団領域との応答関係の回復を主張

■田村明（建築家・行政マン・法政大教授）—建築と建築家の役割、美しい都市景観の原則を提示

■中村良夫（景観工学・京大教授等）—都市景観改善の方途、都市の存立条件と存在理由を考察

■内田芳明（社会思想史研究・横浜国大教授等）—風景の共同感情の必要性和育成について提言

■加藤周一（評論家）—私的空間と公的空間の同一視の回復、景観の持続性を重視

第3章「日本人の自然観・風景観と集落・都市形成」

■日本人の自然観と風景観、住居観を歴史的に考察し、それが集落・都市形成にどのように反映しているかを考察

■島国で温かな気候の日本では、山の幸と水に恵まれ、農耕適地である“山の辺”が集落形成の基本型となり、それが都市形成にも深く影響した

■都市と農村の境界が鮮明でなく、「都市農村混合型」が一般化し、ヨーロッパのような都市世界と“市民”の形成に向かわなかった。都市計画やランドデザインがなく、

自然発生的に都市が肥大し、都市景観への共同感情が育成されなかった

第4章「日本の近代化と都市景観」

- 明治以降の日本の近代化が都市形成・都市景観に及ぼした影響
- ナポレオン3世のパリ大改造、フランツ・ヨーゼフI世のウィーン大改造
- 秀吉・家康の都市造営
- 後藤新平の東京改造構想—後藤新平の開明性、リーダーシップと限界、都市景観と権力、行政の関与
- 永井荷風の都市景観批判
- 都市空間・都市景観と文学
- 現代建築群と都市景観—ロードサイド景観の蔓延
- 丸の内の街並みの変遷と景観
- 超高層ビルと都市景観

第5章「日本における景観政策の現状と課題」

- 景観法以前の景観政策
- 景観法成立以降の景観政策
- 京都市の新景観政策—現在最も先進的な景観政策を実施
- 竹原市、内子町、妻籠宿、大内宿、海野宿—伝統的建造物群保存地区の景観政策
- 長崎市の景観政策—総合的な景観政策を展開
- 小布施町・真鶴町の景観政策—独自の哲学と基準による景観政策

第6章「都市景観に関する市民意識の動向」

- 景観に関して全国調査を行った数少ない2つの事例から考察
- 国土交通省「景観に関する意識調査」2011年9月実施（インターネットモニター制度、調査対象者1168、回収率86.0%（1105人）
 - 自然的景観に関する施策の評価に傾斜
 - 景観法と屋外広告物法改正の認知度は3割と低い
 - 電線類や広告による景観阻害にあまり改善がないと感じている
 - 景観形成に担い手には行政を期待している
- 財団法人中部開発センター「景観に関するアンケート意識調査」2005年実施
 - 日本人についてはインターネット利用、有効回答者数5219、在日外国人は書面（英語）で実施、有効回答者数318。日本人に関しては以下の通り
 - 日本よりヨーロッパの景観の方が美しいと認識
 - 日本人は歴史的町並み、眺望、街路樹の美しい並木道を評価
 - 悪い景観は、氾濫する看板・広告、ゴミ、電線・電柱、建物の不統一

○総じて景観より利便性を優先、デザインは所有者の自由、景観規制による地価下落を警戒

第7章「景観訴訟と景観権確立の可能性」

■過去の景観訴訟—景観権は内容、要件等が不明確であって、私法上の権利として認められない

■景観訴訟の変化—都市景観、街並みの保全の必要性に対し、公法的な規制手段が用意されていない

■国立景観訴訟—街並みを破壊する巨大マンションの建設差し止め訴訟

○東京地裁判決（2002年12月18日）景観利益を侵害しており、20メートルを超える部分の撤去を命じる

○東京高裁判決（2004年10月27日）景観利益を否定し、撤去命令を取り消す

○最高裁判決（2006年3月30日）景観利益を認めたが、建物の違法性は否定

■鞆の浦景観訴訟—万葉集に詠われた風光明媚の港湾景観の保存をめぐる裁判

○広島地裁判決（2009年10月1日）景観利益を認め、埋立免許の差止めを認める

○国立景観訴訟最高裁判決による景観利益の法的保護の効果

○地域を二分する運動の展開、「鞆地区地域振興住民投票協議会」設置

終章「都市生活と都市景観」

■美しい都市生活空間で暮らすことの意味を確認しつつ、あるべき基準や規範について整理し、展望を試みた

■市民に身近な都市の近景や生活景、街並みに対する考え方、整然とした街並みを実現している東京・銀座の“銀座ルール”、公的規制の必要性和範囲を検討

■治安や都市機能など景観以外の価値基準をいかにして景観に向けるか

■景観行政・景観政策の最終的責任の明確化の必要性